

外眼部感染症に対する ritipenem acoxil の臨床的検討

狩野宏成・佐々木一之
金沢医科大学眼科学教室*

経口用ペネム系抗菌薬である ritipenem acoxil を外眼部感染症症例に投与し、その臨床効果と安全性について検討した。薬剤投与量は一日 600 mg で、6 例中 5 例が有効以上の成績を示し、有効率は 83.3%であった。1 症例に *P. asaccharolyticus* が検出されたが、細菌学的効果は不明であった。副作用、および臨床検査値の異常変動は認められなかった。

Key words : ritipenem acoxil, 経口用ペネム系抗生剤, 外眼部感染症

Ritipenem acoxil (RIPM-AC) は新しく開発された経口用ペネム系抗菌薬で、腸管のエステラーゼにより加水分解されて活性を示すプロドラッグである。各種の β -ラクタマーゼに安定で幅広い抗菌活性を有し、特に好気性グラム陽性菌、および嫌気性菌に対して優れた抗菌力を示すといわれている。今回、外眼部感染症に対してその臨床効果を検討したので報告する。

検討対象は、平成 4 年 7 月から平成 5 年 3 月までに金沢医科大学病院眼科外来を受診し本剤投与に対して同意が得られた外眼部感染症患者 7 症例であるが、1 症例は投与後の受診がなかったため、対象から除外した。検討対象 6 例は男性 2 例、女性 4 例で、年齢は 22 歳から 69 歳であった。疾患の内訳は、麦粒腫 4 例、涙囊炎 2 例であった。投与方法は、RIPM-AC を一回 200 mg、一日 3 回食後経口投与した。投与期間はいずれも 7 日間で、総投与量は 3.8~4.2 g であった。臨床効果判定は、眼痛、異物感などの自覚症状、眼分泌、充血などの他覚所見の推移を観察し著効、有効、やや有効、無効の 4 段階

に判定した。また、結膜擦過物からの細菌の分離同定とその消長による細菌学的効果の検討、および随伴症状の有無、血液生化学検査、尿検査による安全性・副作用に関する検討も行った。

検討対象となった 6 症例の年齢、性別、疾患名、分離菌、一日投与量、投与日数、総投与量、臨床効果、細菌学的効果、副作用発現の有無を Table 1 に示した。臨床効果は、麦粒腫では著効 2 例、有効 2 例で、涙囊炎では有効 1 例、やや有効 1 例であった。全体での有効率は 83.3%であった。やや有効と判定した涙囊炎症例(症例 6)は慢性涙囊炎の急性増悪例で、投薬終了時に受診しなかったために、投与後 3 日目の所見より効果判定を行った。

起炎菌として、*Porphyromonas asaccharolytica* が症例 6 より検出されたが、細菌学的効果は不明であった。

安全性に関しては、投薬中に随伴症状が出現した症例はなく、臨床検査値の異常変動も認められなかった。

経口用ペネム系抗菌薬としては、fropenem がすでに開

Table 1. Clinical results of ritipenem acoxil treatment

No.	Age Sex	Diagnosis	Isolated organism	Daily dose (mg)	Duration (days)	Total dose (g)	Clinical effect	Bacteriological effect	Side effects
1	39 F	external hordeolum	(-)	200×3	7	4.2	excellent	unknown	(-)
2	23 F	external hordeolum	(-)	200×3	7	4.2	excellent	unknown	(-)
3	41 M	external hordeolum	(-)	200×3	7	4.2	good	unknown	(-)
4	25 M	external hordeolum	(-)	200×3	7	3.8	good	unknown	(-)
5	52 F	dacryocystitis	(-)	200×3	7	4.2	good	unknown	(-)
6	69 F	dacryocystitis	<i>P. asaccharolytica</i>	200×3	7	4.2	fair	unknown	(-)

*石川県河北郡内灘町大学 1-1

Table 2. Clinical efficacy of ritipenem acoxil

Diagnosis	No. of cases	Clinical efficacy				Efficacy rate
		Excellent	Good	Fair	Unknown	
External hordeolum	4	2	2			4/4
Dacryocystitis	2		1	1		1/2
Total	6	2	3	1		5/6

発されており、その有効性は著者らも確認している¹⁾。RIPM-AC も経口用として開発され、眼組織への移行も良好で種々の外眼部感染症への効果が期待される。抗菌スペクトルは幅広く、好気性グラム陽性菌、嫌気性菌に対してはセフェム系抗菌薬 (CTM, CCL, CFIX) より優れた抗菌活性を示している²⁾。今回の検討では、麦粒腫および涙囊炎に対して 83.3% の有効性が認められた。細菌学的効果は検討症例数が少ないこともあり、明らかではなかった。眼科領域全体での検討結果では、菌の消失率はグラム陽性菌では 90.7% で、グラム陰性菌 73.3%、嫌気性菌 85.7% と外眼部感染症からの分離菌の

多くに有効である²⁾。

投薬中に随伴症状が出現した症例はなく、臨床検査値の異常変動も認められなかったことから安全性については問題ないものと思われた。

文 献

- 1) 北川和子, 佐々木一之, 渡辺のり子, 武田秀利: 外眼部感染症に対する SY5555 の臨床的検討。Chemotherapy 42(S-1): 769~772, 1994
- 2) 熊澤浄一: 第 42 回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム。FC/TA-891, 福岡, 1994

Clinical evaluation of ritipenem acoxil for infectious external eye diseases

Kosei Karino and Kazuyuki Sasaki
Department of Ophthalmology, Kanazawa Medical University
1-1 Daigaku, Uchinada, Ishikawa 920-02, JAPAN

Ritipenem acoxil (RIPM-AC), a newly developed penem for oral use, was administered at 600 mg per day to 6 patients with infectious external eye diseases. The clinical effect was judged as excellent in 2 cases and good in 3 cases, and the efficacy rate was 83.3%. As to side effects, no adverse reactions attributable to RIPM-AC were observed. No abnormal laboratory findings were observed.